

**【全体の概要】**

正答率は、県平均を大きく下回る。

○到達度分布では、「十分達成」は県平均を大きく下回ったが、「要努力」は県平均を大きく上回った。

●観点別正答率では、「話す・聞く」「書くこと」「読むこと」は県平均を大きく下回った。「知識・理解・技能」は、県平均をやや下回った。

●無回答率が県平均より大きく下回った。

|               | 分析の結果・本校の課題   | 改善に向けた具体的取り組み  |
|---------------|---|--|
| 話すこと・聞くこと     | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目的に応じて理由や事例を挙げながら明確に話すことを苦手としている。</li> <li>●共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う力が弱い。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スピーチタイム」だけでなく、日常生活の中に、話し方のスキルを楽しく学ぶ活動を取り入れる。</li> <li>・話し合い活動の場を意図的に仕組み、自分の考え・理由や根拠を挙げながら話す機会を取り入れる。</li> </ul>                               |
| 書くこと          | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●メモをもとに与えられた条件の中で、書くことの内容を明確にして書くことができない。</li> <li>●目的に応じて内容の中心を明確にして見出しをつけたり、写真を選んだりすることが苦手である。</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字数指定や書き出し指定、キーワード指定など、いろいろな条件付き作文を書く活動を取り入れる。</li> <li>・国語科の時間に限らず、記事に即した見出しの付け方や有効な写真の使い方などを考える機会を多く取り入れる。</li> </ul>                        |
| 読むこと          | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●登場人物の会話に即して読んだり、キーワードを見つけながら読んだりする力が弱い。</li> <li>●読み取ったことについて、考えたことをまとめて書く事が苦手である。</li> <li>●無回答率が高く、じっくりと取り組めていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読書タイム」を活用しながら、読書を推進し、いろいろなジャンルの文章に慣れさせる。</li> <li>・多くの文章に触れ、問題を解く機会を増やす。</li> <li>・声に出して文章を読んだり、話の内容やキーワードを捉えさせて要約したりする活動を多く取り入れる。</li> </ul> |
| 言語に関する知識・理解技能 | <p>正答率は県平均をやや下回る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●最後のローマ字の問題で無解答率が高いが、時間不足と思われる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の意味を考えたり、文字をきちんと見たりする習慣をつけさせる。</li> </ul>  |

|  |
|--|
| <p><b>【全体の概要】</b></p> <p>正答率は、県平均を大きく下回る。</p> <p>○「知識理解」の単元、及び「図形」「数量関係」の領域において、昨年度12月の調査より正答率が上昇した。</p> <p>●「十分達成」の児童生徒人数の割合は、県平均を大きく下回った。</p> <p>●観点別正答率は、県正答率と比べ「数学的な考え方」「技能」「知識・理解」ともに、大きく下回った。</p> <p>●全体的に無解答者が見られた。</p> |
|--|

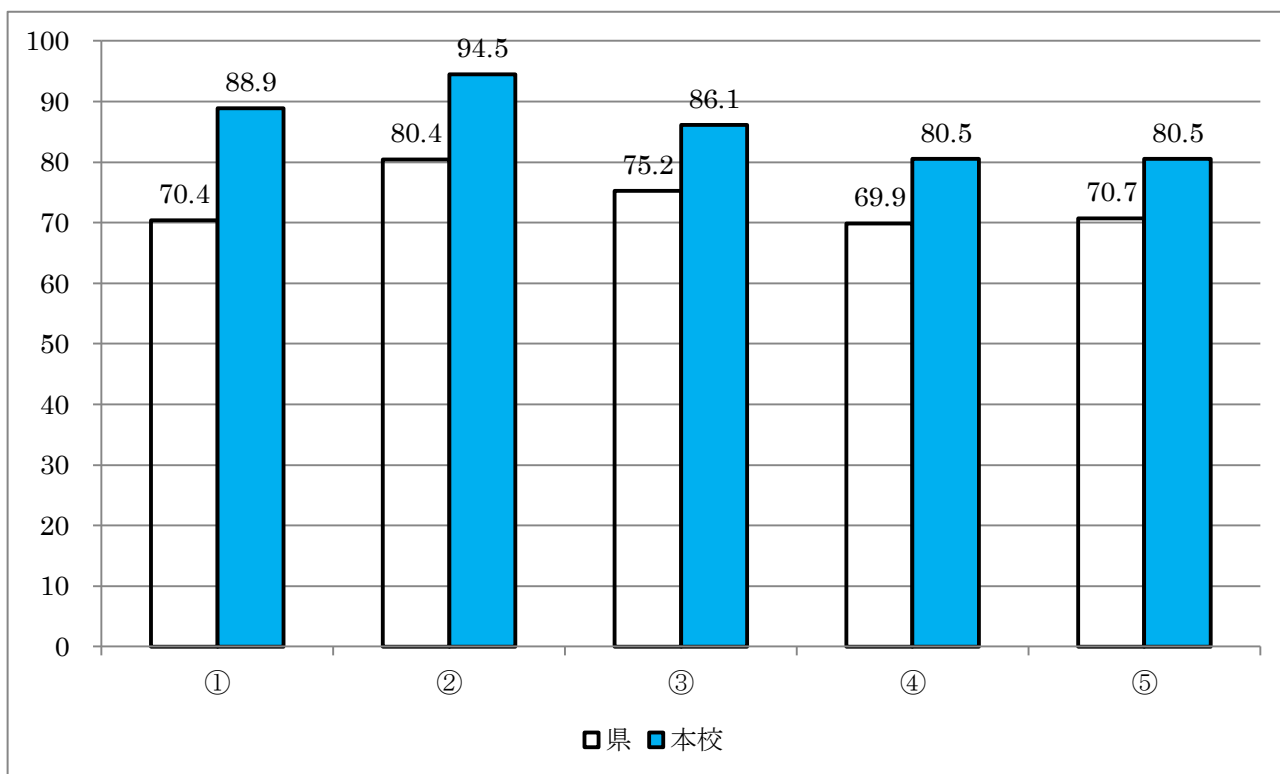
|              | 分析の結果・本校の課題  | 改善に向けた具体的取り組み   |
|--------------|--|---|
| 数学的な考え方      | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <p>○複合図形の面積を求める問題の正答率は、県正答率をやや上回った。</p> <p>●[活用]に関する問題では、4問とも県正答率より大きく下回っていた。[活用]に関する問題の無解答率が他の問題に比べ高くなっているため、どのように答えを表現してよいかわからないと推測される。</p>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題の題意を読み取れておらず、その問題で何を問われているかがわかっていない児童が多いので、問題文の数字や問われている部分に印を入れながら読む習慣をつけさせる。</li> <li>習熟などを利用し、活用問題に触れる機会を多く取り入れる。</li> <li>説明の仕方のモデルを提示し、反復して話すことで説明の定着を図る。</li> </ul> |
| 数量や図形についての技能 | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <p>○「数量関係領域」の「グラフの読み取り」は、十分達成をやや上回った。</p> <p>●分度器の読み取りや単位換算の問題では、県正答率を大きく下回った。</p> <p>●数と計算の問題では、特に小数のかけ算で県正答率を大きく下回った。</p>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>その時の学習内容だけでなく、復習の問題や全学年の内容などを宿題として出したりすくすくタイムで取り入れたりする。</li> <li>小数のかけ算やわり算などケアレスミスをしないように、丁寧に筆算をさせたりすくすくタイムなどで練習量を増やしたりする。</li> </ul>                                       |
| 数量や図形の知識理解   | <p>正答率は県平均を大きく下回る。</p> <p>○展開図を使った問題では、県正答率をやや上回った。</p> <p>●対角線など「図形領域」の言葉を問われる問題や数の大小を並べる問題では、県正答率を大きく下回った。</p> <p>●問題文が長くなると無解答率が高くなっている。問題の情報量が多くなると、その中から必要なことを取捨選択できなかつたと推測される。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>文章問題の題意を読み取れておらず、その問題で何を問われているかがわかっていない児童が多いので、問題文の数字や問われている部分に印を入れながら読む習慣をつけさせる。</li> <li>単元の学習内容で必要な言葉を習熟などを活用し、類似問題に取り組むことで知識の定着を図る。</li> </ul>                           |

## 平成29年度県学習状況調査結果分析・対策 5年

### 〔意識調査〕

#### 【数値が特に高かった項目】

|   |  |
|---|--|
| ① | <p>「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。</p> <p>* 「当てはまる (33.3)」「どちらかといえば当てはまる (55.6)」と答えた児童の割合</p>                |
| ② | <p>社会の授業で、自分が調べたり、考えたりすることをはっきり分かって学習している。</p> <p>* 「当てはまる (41.7)」「どちらかといえば当てはまる (52.8)」と答えた児童の割合</p>                                    |
| ③ | <p>国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている。</p> <p>* 「当てはまる (50.0)」「どちらかといえば当てはまる (36.1)」と答えた児童の割合</p>                                   |
| ④ | <p>国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている。</p> <p>* 「当てはまる (33.3)」「どちらかといえば当てはまる (47.2)」と答えた児童の割合</p>                                     |
| ⑤ | <p>授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う。</p> <p>* 「そう思う (22.2)」「どちらかといえばそう思う (58.3)」と答えた児童の割合</p> |

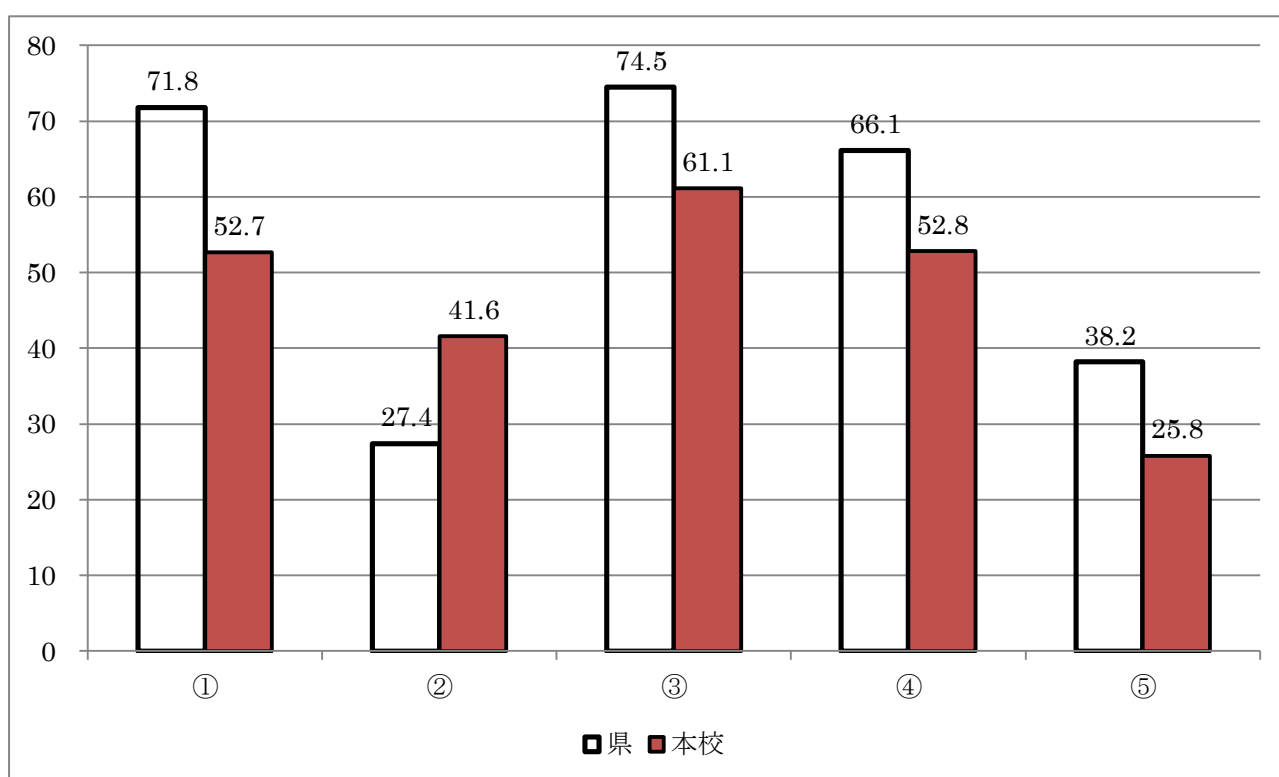


#### 分析と今後の取り組み

- ・「総合的な学習の時間」は、課題を設定しそれを調べていく活動であることが児童に浸透しており、積極的に取り組んでいると考えられる。(①)
- ・学習のめあてを理解し、目的をもって学習活動に取り組んでいる。また、課題解決学習が授業の中心となっていて、児童に浸透していると考えられる。(②)
- ・多くの教科でコミュニケーション活動を取り入れた学習をしていることが、さまざまな教科でも生かされていると考えられる。(③④⑤)

## 【数値が特に低かった項目】

|   |   |
|---|---|
| ① | 算数の勉強は好きだ。<br>*「当てはまる (44.4)」「どちらかといえばあてはまる (8.3)」と答えた児童の割合   |
| ② | 学校の授業以外に、普段1日あたりどの位の時間、読書を読みますか。<br>*「全くしない (8.3)」「10分より少ない (33.3)」と答えた児童の割合  |
| ③ | 理科の授業で学習したことを、普段の生活に生かさないか考えたり、学習したことが生かされているものを、身の周りから見つけたりしている。<br>*「当てはまる (25.0)」「どちらかといえばあてはまる (36.1)」と答えた児童の割合 |
| ④ | 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立て方を工夫している。<br>*「当てはまる (13.9)」「どちらかといえばあてはまる (38.9)」と答えた児童の割合                        |
| ⑤ | 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へどの位行きますか。<br>*「週に4回以上 (2.9)」「週に1~3回 (22.9)」と答えた児童の割合                 |



### 分析と今後の取り組み

- ・「算数の勉強は好きだ」と答えた児童は、「当てはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせると52.7%と低く、県平均を大きく下回っていた。これは、「算数の授業の内容は、よく分かる」の質問に、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」と回答した児童が、19.5%見られたことから、授業でよく分からないためだと思われる。授業の中で「できた」という充実感を味わい、もっとやりたいと児童が思うように基礎的な学習の積み重ねを今後も取り組んでいきたい。(①)
- ・積極的に読書をする時間が少ない児童が多く見られた。また、学習時間以外の時に、学習したことが使えないかといった日常生活の中で学習を意識した生活が余り見られなかった。普段の学習が、生活に密接に働いていることを意識したり、学習したことを更に発展させたりという興味関心が薄いようである。読書指導では、テーマを与えた継続的な指導を行ったり、授業の中で日常生活と関連した現象を紹介したりするなどの指導の工夫が必要である。(②③④⑤)